



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	<実践研究1-II>好きな遊びをしよう：ごっこ遊びで使う物を作る（一人ひとりを生かす環境構成のあり方とは？）
Author(s)	井口, 眞美
Citation	研究紀要 / 東京学芸大学教育学部附属竹早小学校・幼稚園, 19: 37-48
Issue Date	2003-05
URL	http://hdl.handle.net/2309/6036
Publisher	
Rights	

第1分科会 実践研究1-Ⅱ

好きな遊びをしよう ～ごっこ遊びで使う物を作る～

井口 眞美 (4歳児はなぐみ)

11月末頃から、5歳児のお店やさんごっこに関心をもち、5歳児の行う人形劇を見に行ったり、一緒に折り紙のリボンやさんに参加したりする姿も見られるようになった。

そこで、友達からの刺激を受け、「ぼくもやってみよう」「作ってみたい」と自分なりに遊びに取り組む姿を期待し、友達の遊びが互いに見合えるような環境構成を心がけた。また、自分の思ったことや感じたことを友達に対して上手に表現できるように援助してきた。本実践では、抽出児の様子を記録にとり、その変容を追うことから、環境構成が適切であったかどうかをふり返る。

実際には、抽出児の記録において、下記の視点から環境構成を振り返ってきた。

- ①「活動の取り組み(個の特性や集団との関わり)」はどうであったか?
- ②子どもの「見とり」は正しかったか?
- ③見とりに基づく「ねらい」は正しかったか?
- ④ねらいを具現化する「環境構成」は適切であったか?

1. 本実践の背景

(1) 一日の生活について

竹早園舎では、登園してから10時40分までの時間は、各自が好きな遊びに取り組むことのできる時間(「好きな遊びの時間」としている。この時間は、2階の4、5歳児保育室、テラス、園庭、(雨天時は遊戯室)、園舎内の至る所で思い思いの遊びが繰り広げられる。

片づけをした後、お弁当の時間までは、クラスごとに集まって、歌を歌ったりお話を聞いたりしてみんなで楽しむ時間(「クラスで取り組む時間」)である。この時間には、製作遊び(ヒヤシンスのカバーの絵を描く)、運動遊び

(5歳児と一緒に運動会ごっこをする)等の遊びも行っている。

(2) 4歳児にとってのごっこ遊び

4歳児にとってごっこ遊びは、自分の思い描くイメージを、なりきることで表現できる重要な遊びであると考えている。ごっこ遊びを通して、子どもは、

- ・なりきって身体を動かす楽しさ
- ・ごっこ遊びに使う物を作る楽しさ
- ・友達と一緒に遊ぶ楽しさ

を味わうことができる。子どもは、お母さん、お姫様、テレビのキャラクター等、様々なものになりきって遊ぶことが少なくない。実際に、クラスの中でも数々のごっこ遊びが繰り広げられてきた。

— <一日の流れ> —	
9:00	登園 身支度、遊びの準備 「好きな遊びの時間」
10:40	片づけ
11:00	クラスごとに集まる 「クラスで取り組む時間」
11:40	お弁当
13:30	降園

①クラスの姿から …「ごっこ遊びの中に作る遊びを取り入れる」

10月になり、友達の作った物を真似て自分も作ってみようとしたり、工夫して作ってみようとしたりする姿が見られるようになってきた。しかし、じっくり作ることはよいが、友達との関わりが少ない子、作った物をごっこ遊びに活用することなく、できあがるとそのまま家に持ち帰る子も見られた。またその反対に、作る遊びに興味をもてず、好きなキャラクターになるものの、ごっこ遊びが断片的であったり、継続時間が極めて短かったりする様子も見られる。

こういった実態を踏まえ、ごっこ遊びに発展性をもたせるため、作る遊びに視点をおいた環境構成を考えていきたいと考えた。ごっこ遊びの中に作る遊びを取り入れることで、以下のようによさが期待できる。

- ・ごっこ遊びに使う物を作ることで、イメージが具体化しやすくなり、遊びが発展性をもつ
(例：ままごと遊びの食べ物)
- ・友達と一緒に物を身につけることで、イメージが共有しやすくなる
(例：戦いごっこの武器等)

②抽出児A女の姿から …「作る遊びを通して、友達との関わりを広げる」

10月に入り、保育室のままごとコーナーでお家ごっこやレストランごっこが毎日繰り返して続いていた(B女ら)。また、すぐ隣で男児(C男ら)が積木で遊んでいるため、互いの場所に行き来し合って遊んでいた。

彼らは、気の合う友達と一緒にできると、「先生、食べ物作って!」と、自分たちでは作ろうとしなかったり、既製の物で済ませようとしたりすることも多く、遊びが長続きしなかった。

作ることの得意なA女は、これらの様子を見



ごっこ遊びを楽しむ4歳児

と傍観しており、友達が困っていると、「私、作れるわよ!」とはりきって、作る手伝いをする事も多い。そこで、保育者がA女らと一緒に、ごっこ遊びに使う物(食べ物等)を作っていくことで、A女が遊びに参加するきっかけを作るとともに、子どもたちのごっこ遊びのイメージを豊かにし、ごっこ遊びを更に発展させていきたいと考えた。

2. 活動の経緯

(1)クラスの实態

3学期になると、登園してすぐに、友達に声をかけて一緒に遊び始めることができるようになった。また、遊びに使う物を作る、ごっこ遊びをする、どろけいや色おにをする等、気の合う友達と一緒に思い思いの遊びを見つけて取り組めるようになっている。積極的に友達に関われず保育者が遊びに参加するきっかけを作っていた子も、徐々に友達との関わりがもてるようになってきた。その反面、自分の気持ちの伝え方が幼く、すぐに手が出てしまったり、強い言い方になったりする子も多かった。

ピクニックごっこの食べ物を作る、恐竜ごっこの探検道具を作る等、作ることを楽しんでい

る子は多い。また、作った物に飾りをつけたり、模様をつけたりする方法を伝えてきたことで、自分なりに工夫して作ることに関心をもつ子も増えてきた。

片付けに関しては、自主的に取り組める子とそうでない子との個人差が見られる。また、ハサミをしまい忘れる、ゴミを放ったままにする等、遊んだ物の始末がぞんざいになりやすい。そこで、できるだけ個別に声をかけ、物の始末や片付けに意識が向くように指導してきた。

(2)環境構成のポイント

幼稚園では、すぐさま「好きな遊びの時間」に一斉に作る遊びに取り組ませたり、一人ひとりの子どもの実態を踏まえずに作る遊びを勧めたりするわけでは決してない。しかし、長いスパンの中で、一人でも多くの子の関心が作る遊びにも向き、ごっこ遊びがより広がりをもって発展することを願って指導を進めている。

具体的には、子どもの主体的な活動を支えるために下記のような環境構成を心がけてきた。

①一人ひとりの興味・関心に添った物的環境を整え、援助をしていく

- ・遊びに必要な物のヒントを与えたり、一緒に作っていったりする。
- ・「クラスで取り組む時間」には、壁面を飾る絵を描く、当番カードに絵を描く等の場を設定し、作ったり描いたりすることへの関心を広げる環境を設ける。

②友だちのよい面を見とったり、取り入れたりしていこうとする態度や、友だちと力を合わせる楽しさに気づかせていく

- ・保育室や廊下の作品棚に作品を飾り、互いの取り組みを見合える環境を作る。
- ・個々が工夫している点や丁寧な取り組みの姿を、保育者が言葉で周りの子に伝えていく。
- ・友だちの輪に入りにくい子には、遊びに加わるきっかけを作るよう心がける。また、遊びの中でも互いの遊びが見合えたり関わったりするような場作りを心がける。
- ・「クラスで取り組む時間」に、作品紹介の時間を設け、作品を見合う場を設ける。

③「遊び」を総合的に発展させる

- ・ごっこ遊びのイメージを広げられるよう、ごっこ遊びに保育者も参加したり、使う物を子どもと一緒に考えていったりする。
- ・作るためのヒントを与えたり、保育者も一緒に作ったりする。

3. 研究発表会当日の様子

ここでは、研究発表会当日の資料として、「<資料1>週案」と「<資料2>日案」を添付した。本園では、2年間を見通した教育課程を踏まえ、「前週の子どもの実態」を見とり、「その週のねらい」を立て、予想される「活動」や「環境構成」を考えるという指導のプロセスを週単位でとらえている（「<資料1>週案」参照）。更に具体的な計画に関しては、予想される活動場所ごと、各々の子どもへの環境構成のあり方を記した日単位の計画「<資料2>日案」を付記した。

実際には、園庭では、鬼ごっこや築山滑りをする、砂場でたんけんごっこや山作りをする等友達と一緒に遊びを進める姿が見られた。2階では、製作遊びやお店やさんごっこ等、作る遊びが多く見られた。前日も行われていたおみせやさんごっこが継続するよう、子どもの登園前にお店やさんごっこの場を設定しておいた。そのため、前日とは違ったメンバーも加わり、商品やチケットを作りながら遊びが展開していった。

4. 研究発表会に至る抽出児の様子と環境構成

各抽出児に対する環境構成が適切であったかを検証するために、

- ①「活動の取り組み（個の特性や集団との関わり）」はどうであったか？
- ②子どもの「見とり」は正しかったか？
- ③見とりに基づく「ねらい」は適切であったか？
- ④ねらいを具現化する「環境構成」は適切であったか？

をふり返ることができるよう、記録も「活動の取り組み」「見とり」「ねらい」「環境構成」を明確に書き分けるように心がけた。（研究発表会当日の一人ひとりの「ねらい」を立てるにあたって、特に重要と思われる「見とり」の表記に~~~~~を付してある。）

(1)抽出児A女について

【活動の取り組み】

製作活動が得意であり、製作コーナーで遊ぶことが多い。友達が困っていると「私、作れるわよ！」とはりきって作る手助けをすることはあったが、自分から遊びの一員として参加することは少なかった。しかし、3学期になり、C女とコンサートごっこをする等、友達と遊ぶ場が増え、以前は見られにくかったごっこ遊びも多くなった。

当番活動や片付け、保育者の手伝いに関しては意欲的で手際もよい。

【見とり】

以前から友達への関心は高かったが、自分から遊びに参加するきっかけがつかめなかったようだ。3学期に入り、C女と継続的に遊んだことで、「気の合う友達ができた」という実感をもち、表情も明るくなっている。本来自己主張は強いタイプであると考えられるが、C女との関係においては、相手の気持ちを探りながら行動しているような姿が見られる。また、友達との関わりが増えたことで、ごっこ遊びへの関心が高まったと思われる。

【ねらい】

- ・ごっこ遊びの中で、イメージを表現する楽しさを味わう。
- ・作る遊びを通して、ごっこ遊びを発展させる。

【環境構成】

- ・落ち着いて遊べるよう、ごっこ遊びの拠点となる場所をA女らと相談しながら作る。また、コンサートごっこの衣裳を飾る、チケットを作る等、ごっこ遊びを発展させるためのヒントを提示していく。
- ・C女が他の友達と遊び始めてしまうと、気後れしてしまう様子が見られる。その際は、友達の輪に入るきっかけを作る。

↓

<研究発表会当日の様子と環境構成>

登園してすぐ、動物当番を行った後、2階保育室に上がってきた。友達の遊びを眺め、何の遊びをしようか迷う場面が見られたが、C女が「お弁当作の手伝って」と頼んだことで製作テーブルで製作遊びを始めた。そこで、より落ち着いて遊べるように2人に椅子を持ってきて

座るよう勧めた。

しばらくして、コップの取り合いが始まる。今までは、C女に対して自分の意見を飲み込んでしまうことが多かったが、この日は珍しく、お互いに意見を譲らずに喧嘩になった。A女には自分の意見を伝える機会も必要であると考えたので、保育者はしばらく様子を見守った後、互いの話を聞きながら解決方法を考えていった。最後には、ジャンケンでどちらがそのコップをもらうか決め、もらえなかったC女も、別のコップを二人で一緒に探したことで仲直りができた。



「これ、私が見つけたの！」

この日はごっこ遊びは見られなかったため、製作遊びに落ち着いて取り組めることを大切にしようと考えた。喧嘩の場面を通して、C女に対しても自分の気持ちを伝えながら遊べるようになりつつあると思われる。

(2)抽出児A男について

【活動の取り組み】

広告紙やストローで剣を作る、折り紙でしゅりけんを折る等、じっくりと何度も繰り返し取り組んだり、工夫して作ったりすることができる。その反面、関心の向く活動の幅が狭かったが、2学期中盤からは、園庭で思い切り体を動かして遊ぶ、裸足になって遊ぶといった開放的な遊びも増えてきた。

身体が大きいこともあり、戦いごっこで勢い余って友だちを突き飛ばしてしまうこともしばしばであった。戦いごっこの好きなB男らと共に、実際に生じたトラブルに対し、即時的に対応しながらルールを話し合ってきた。3学期になり、友達と意見が食い違った時でも自分の思いを抑えることができるようになってきている。

【見とり】

友達と一緒に遊ぶことに関心が高い。自分の気持ちを抑えることで友達とのトラブルも減り、友達からも受け入れられるようになったことで、友達と関わる楽しさを感じ始めていると思われる。室内にこもりがちだった以前に比べ、気持ちも開放的になっている。また、作る物へのこだわりは強く、納得がいくまで取り組もうとする姿を見守っていく必要がある。

【ねらい】

- ・気の合う友達と一緒に、思い切り身体を動かして遊ぶ。
- ・武器等、遊びに使う物をじっくりと作る。

【環境構成】

- ・D男ら、気の合う仲間と一緒に園庭で遊ぶことを働きかけていく。
- ・空き箱等必要な材料については、作品のイメージを言葉で伝えさせるようにし、できるだけA男の思いに添ったものを渡せるようにする。割りピン等の材料に関しては、本人の求めに応じて提示できるように準備しておく。



<研究発表会当日の様子と環境構成>

(当日欠席)

(3)抽出児D女について

【活動の取り組み】

作ることが好きで製作コーナーにいることが多く、コンパクトや髪飾り等、お姫様になりきる物をじっくり作っている。登園すると、早々にスカート、エプロンを身につけお姫様になるものの、自分から友だちの遊びに加わることはなかなかできなかった。3学期になると、E女、F女 らに対し「一緒に遊ぼう」「入れて」と声をかけ、ごっこ遊びをすることが増えてきた。

【見とり】

友達とごっこ遊びをすることに楽しさを感じている。以前は、自分のイメージが友達のイメージと食い違ったまま遊ぶ姿も見られたが、最近では、友達の意見を取り入れ、犬役や赤ちゃん役になり友達とのイメージのやりとりを楽しんでいるようである。気の合う友達に対しては、自分の気持ちを言葉で伝えられるようになっている。

【ねらい】

- ・友達との関わりを楽しみながらごっこ遊びを進める。
- ・食べ物等を作って遊びに活用する。

【環境構成】

- ・作る遊びの場面では、D女のイメージ豊かな取り組みを認め、製作コーナーにいる周囲の子に紹介したり、一緒にごっこ遊びをしている友達に伝えていったりする。
- ・友達の遊びに参加できず一人であるような場合には、F女等に声をかけて遊びに加わるきっかけを作っていきたい。



<研究発表会当日の様子と環境構成>

日頃から作って遊ぶことの好きな子であるが、この日も、3人が集まって廊下でお花やさんごっこのお花を作り始めた。しかし、リーダーシップをとっていた子と遊びのイメージがずれしてきたことでお花作りを止めてしまう。その後、園庭に出て一人築山を滑って遊び始めた。

(事前に副担任とも話し合っていた通り)、副担任が友達との遊びをつなげることを心がけたため、友達と関わりながら遊びを進めることができた。



「いらっしゃいませ」



「わあい、よくすべるね」

(4)抽出児G女について

【活動の取り組み】

園庭で鬼ごっこをする、なわとびをする等、身体を動かすことを好む。室内では、折り紙に関心が高く、折り紙の本を見ながら挑戦する姿も見られる。H女、C男、3学期に同じお弁当グループになったI女等と日替わりではあるが遊ぶ姿が見られる。誰であっても困っていると優しく手助けをしたり、積極的ではないが同じ場に居合わせた子と一緒に遊んだりすることができる。

【見とり】

友達の遊びを手伝ったり、冗談を言ったりすることを通して、友達との関わりをもとようとしているようである。その意味で、カプラ、折り紙等は、G女にとって抵抗なく友達との接点もてる遊びであるように思われる。

【ねらい】

- ・周りで遊んでいる友達に、自分から働きかける。
- ・自分の気持ちを友達に言葉で伝える。

【環境構成】

- ・友達と関わるきっかけとなりやすいカプラを高く積んで遊べるようにする。カプラは、予め少しだけ積んでおき、遊びに取りかかりやすくしておく。
- ・園庭で遊ぶことも予想される。園庭にいる保育者は、なわとび、色おに等、身体を動かす遊びを通じて友達と関わりがもてるよう働きかける。



<研究発表会当日の様子と環境構成>

H子の隣で折り紙を始める。近くで、お店やさんごっこをしている数人の子たちがおり、それを横目で眺めていた。そこで、2人の手を引き、お店やさんごっこに入るきっかけを作ることにした。

気の合うC男もお店やさんのメンバーであったこともあるのか、お店やさんでもらったお金を大事そうに抱え、お財布作りを始めた。自分から「くださいな」とお店やさんに買いに行くことはなかったが、予想通り、保育者がきっかけを作ることで、友達との関わりを楽しむことができた。



「一緒に買い物に行ってみよう」

(5)抽出児E男について

【活動の取り組み】

F男、J女らとハリケンジャーごっこで楽しむことが多かったが、J女を取り合ってF男と喧嘩をしたり遊びから外れたりする場面も見られるようになった。そのかわりに、G男らと遊ぶ場面も見られるようになった。まだ、自分の気持ちを言葉で十分に表現できず、時折黙り込んでしまったり、大声で泣いたりすることがある。

室内では、独自のイメージでハリケンジャーごっこに使う物を作ったり、多色の折り紙やクレヨンを使ってカラフルに飾ったりして楽しんでいる。

【見とり】

ごっこ遊びに使う物をじっくりと作ることはできるが、そのイメージを友達と共有して遊ぶことは少ない。

自分の気持ちをうまく伝えられずに、F男とトラブルになってしまうことが多いようだ。自分の気持ちを言葉で伝えられるようにするとともに、J女やF男と遊ぶことにこだわりすぎず、他の友達にも目を向けていく必要があると思われる。

【ねらい】

- ・じっくりと自力で剣等を作ったり工夫したりする。
- ・自分の気持ちを言葉で表現する。

【環境構成】

- ・気の合う友達と一緒に遊ぶきっかけを求めていると思われる場合には仲介に入る、トラブルが起こった時には、双方の話を丁寧に聞き気持ちを代弁する等の援助を心がける。
- ・いろいろな友達との関わりがもてるよう、剣作り等でE男が友達の手助けをするような機会をもつようにする。また、E男の作品の発想の面白さを周囲の友達に伝えていく。



<研究発表会当日の様子と環境構成>

この日は、砂場で遊び始めた。副担任が、他児との関わるきっかけをもとうとしたが、初めのうちは一人のイメージで遊んでいた。途中で、同じ砂場で遊んでいたF男が他児に砂をかけられ口論となる。その際、E男は、F男をかばう発言が見られた。

ここでは、F男を自分のなかよしと認めていること、そのF男を助けてあげようとしたことが見とれた。



「もっと大きな穴を掘ろうよ」

5. 本研究の成果と課題

(1) 成果

ごっこ遊びの中で、作ったり描いたりする活動が取り入れられるような環境構成を心がけたことで、自分なりにのびやかに表現できる子が増えてきた。研究発表会当日も、お店やさんごっこ等の作る遊びが多く見られ、長時間一つの遊びに取り組む姿についてはよい評価を受けた。

また、抽出児の様子を年間にわたって記録したことで、園内で非常勤職員を含めてその子について話し合い、新たな情報を得たり、自分の見とりを修正したりする機会を多くもつことができた。

(2) 課題

分科会のメンバーの中で、抽出児の記録をもとに環境構成について振り返る機会が多くもてなかった。来年度は、幼小の教官が抽出児について丁寧に話し合う場をより多くもち、複数の視点で環境構成を見直していきたいと思う。

先週の子どもの姿 (発達の姿)		ねらい(O) 及び 内容(・)		
好きな遊びの時間	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの子が、気の合う友達と一緒に、折り紙やさんやピクニックごっこ、コマ回し、砂場での遊び、どろけい等、思い思いの遊びを見つけて遊んでいる。 しかし、他の遊びに興味がすぐ移ってしまったり、遊びが発展しにくかったりすることも多い。また、自分の気持ちを乱暴な言葉で伝えて喧嘩になったり、遊びがこわれてしまったりすることがある。 B男は、気持ちをコントロールすることがかなりできるようになった。風邪による欠席が多い。 A女は、B女、C女らとショーごっこをする等、友達との関わりが積極的になっている。 G女は、H女、I女等、積極的ではないがいろいろな友達との関わりが見られるようになった。 E男は、体調がすぐれず欠席が多かった。 D女は、友達に遊びのアイデアを伝える等、以前より積極的に友達と関わる様子が見られる。 みんなでの片付けには、進んで取り組める子が増えてきたが、遊びの途中での片付けができていない。遊具や個人持ちのハサミ、サインペンを出したままにする子が少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちと一緒にの場で、自分の思ったことや感じたことを表す ・ごっこ遊びに使う物を工夫して作る ・お店やさんごっこや劇場ごっこ等の遊びに自分から加わる ・コマやなわとび、固定遊具に繰り返し挑戦する ○クラスみんなのやっていることがわかり参加しようとする ・友達の気持ちも受け入れながら、一緒に遊んでいく楽しさを感じる ・楽しかったこと等をみんなに聞こえるように話す ・壁面を飾って楽しむ 		
クラスで取り組む時間	<p>【クラスで集まる時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなでコマを回したり、なわとびに挑戦したりする時間をもった。コマは多くの子が回せるようになっている。 なわとびはまだうまくタイミングがとれずに跳べない子も少なくないが、D女、A女らは積極的に取り組んでいる。 短時間ずつ、マラソンをする時間を設けている。転びやすい等、運動経験の少ない子もいるため、できるだけ走る時間をもちたい。 冬休みにあったこと等、みんなに話したいことを一人ずつ発表している。互いの話に興味を示している。 <p>【ヒヤシンスの水栽培】</p> <ul style="list-style-type: none"> ヒヤシンスの色によって生長の差があるが、順調に育っている。 <p>【動物当番】</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊張しつつも、新聞引継当番を楽しんで行っている。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> コートをきちんと着てから、降園口を出るよう指導をしている。自分でしようとはするが、まだ、チャックが閉められない子がいる。 図書貸出の際に、リュックなどを丁寧にロッカーにかけてから列に並ぶよう声をかけてきた。ほとんどの子ができているが、時々慌てて、乱雑になることがある。 J女は、図書当番の時にまだ不安があるようである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなの仕事を交代でやりたり順番でやりたりする ・遊具の片付けに自主的に取り組む ・自分の持ち物や道具箱の整理を行う ・金魚当番や新聞引継当番、動物当番を行う ・やかん当番を行う 		
1/20日(月)	21日(火)	22日(水)	23日(木)	24日(金)
9:00 登園 ○好きな遊び 10:40 片付け 11:00 集まる ○マラソン 11:15 2階に集まる ・絵本 ・歌 11:20 お弁当 12:30 片付け ・新聞引継 ・皆に話したいこと 1:00 降園	9:00 登園 ○ヒヤシンスの水替え ○好きな遊び 10:30 片付け 10:50 集まる ○マラソン 11:05 2階に集まる ・好きな絵を描こう 11:40 お弁当 12:50 片付け ・新聞引継 ・皆に話したいこと 1:30 降園	9:00 登園 ○好きな遊び 10:40 片付け 11:00 集まる ○マラソン 11:15 2階に集まる ・新聞引継 ・絵本 ・歌 ・皆に話したいこと ・明日の図書貸出について 11:30 降園	9:00 登園 ○好きな遊び 10:40 片付け 11:00 集まる ○マラソン 11:15 2階に集まる ・絵本 ・歌 ・明日からの動物当番について 11:30 降園	<研究 (9:15~9:30) ○好き (10:30~10:45) ・紙芝居 (11:00~11:00) *上履

*PTA3:00~

*分科会4:15~

*資料印刷

*前日準備

<深める> 年長組へのあこがれや期待感に支えられて、自分なりにやってみる時期

環境の構成 (時間帯, 場所・遊具の設定, 保育者の援助, 具体的活動を含む)

*基本的には、はなぐみ保育室(井口), つきぐみ保育室(渡辺T), 園庭(恵美T), 保健室・廊下(佐藤T)とし、様子を見ながら交代をする。交代をする際には、保育者同士連絡を取り合って速やかにチェンジする。

【2階保育室】

▲ごっこ遊びの場作りをする

- ・ままごとコーナー, 積木場(スポンジ等, 食べ物作りの材料を用意する)
- ・お店やさんごっこで遊べる場(折り紙やさん)や舞台・観客席(劇場, バレエごっこ)を子どもと一緒に作っていく。

▲ごっこ遊びが発展するように、商品, チケット, 衣裳等, 遊びに使う物を作って遊ぶことを提案したり、更に工夫して作るヒントを与えたりする。

▲カプラ, プラレール, 車作りでじっくり遊べるような場を作っておく。

【園庭】

▲なわとびについては、使い方を指導していく。結び方についても、子どもの様子に応じて指導する。

▲身体を動かして遊べる色鬼, どろけい等の遊びを進めていく。

【片付け】

- ・遊び途中の片付けに関しては、個別に声をかけ、片付けをしてから次の遊びに取りかかるように働きかける。(遊具, ハサミやサインペン, ゴミ等)
- ・みんなでの片付けの際には、頑張っている姿を認め、周りのみんなにも伝えていく。

【クラスで集まる時間】

①マラソンをする

- ・片付けが終わったら、園庭に集まる。
- ・時間がとれる限り、継続的に行っていく。

②21日(火) 壁面を飾る

③道具箱の整理をする

- ・作った物やコマの紐が乱雑に入っていないか点検する。

【21日(火) ヒヤシンスの球根を育てる】

- ・朝の身支度, 金魚当番が終わったら、2階に上がり水を取り替えてから遊ぶ。

【動物当番】

①新聞引継当番(22日まで)

- ・降園時刻が変則的なので、5歳児担任と当番の時刻を確認する。

②動物当番(24日~)

- ・24日に限り、当番の子は登園時刻を早めて当番を行うことにする。

【23日(木) 図書貸出】

- ・リュック, 絵本袋が丁寧にロッカーに掛けてから並ぶことを徹底させる。
- ・水曜日の帰りに図書貸出の話をする。

【コートの始末, 脱ぎ着】

- ・コートやレインコートのボタンをはめることを徹底していく。
- ・トイレの声かけもする。

4日(金)

発表会>
動物当番)
登園
な遊び
片付け
集まる
居
降園
き持ち帰り

<備考>

- *20日(月) PTA
・研究会用園児名札を配り、火曜日からつける。
(お弁当グループの色別に、出席番号を記入したもの)

<今週の歌> 『そうだったら いいのにな』

<子どもの記載について>

本週案においては、子どもの名前は、出席番号で示してある。(例:F男)
また、抽出児については、(週案と日案に限り)波線のアンダーラインで強調してある。(例:A女)

<資料2> 4歳児はなぐみ日案

【これまでの様子】

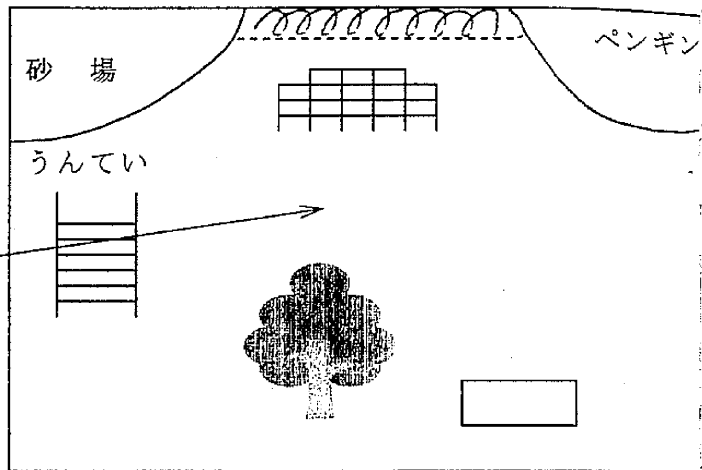
友達への関心が高まり、積極的に気の合う友達と一緒に遊びたいという子が増えてきた。劇ごっこ、お遊びも増えてきている。自分のなりたい役になり、ごっこ遊びに使う物（バレエの発表会の衣装、戦いは、それを利用して遊ぶ姿もあった。

その一方で、J女、I女等、一人で製作遊びを楽しめるが、友だちとの関わりが消極的な子が数人いる。持続時間が短く、遊びの場を転々とする姿（F男、R男ら）も見られたため、車作りのためのゴムタイヤを用意した。

使った物を片付けてから次の遊び場に移る、ゴミ等の始末をする等、生活面の指導が必要である。

<園庭で遊ぶ>

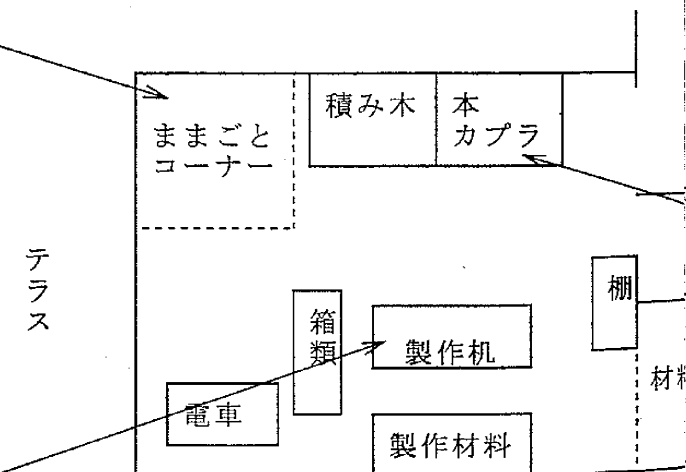
- 友達と一緒に長なわとびやどろけいを楽しんでいる。
- 砂場での遊び、基地作りをする子もいるが、遊び集団の人数は少ない。
- 長なわとび、どろけい、色鬼等、思い切り体を動かせる場を設ける。
- 一人になりがちな子を運動遊びに誘うようにする。(G女、F男)
- ペンギン山での遊びの安全面に注意する。(E男ら)



【園庭環境図】

<ままごとコーナーで遊ぶ>

- 劇場ごっこと繋がって展開することがある。友達関係のトラブルで遊びが壊れることがある。(A女、B女)
- すぐ隣の積木と組み合わせて大きな家を作ったり、劇の舞台を作ったりして5~6人で遊ぶことも増えているが、遊びの持続時間が短い。
- レストランごっこの食べ物、お店屋さんの商品、遊びに応じて作る物のヒントを示す。
- 落ち着いて遊べるよう、ままごとコーナーは保育室の隅に常設してあるが、枠積木で塀の囲いを作ったり、ついたてを立てたりしてより落ち着いて遊べるようにする。



【2階 4歳児保育室】

<遊びに使う物をつくる>

- 剣を作る(A男)等、自力で取り組もうとする姿が育ってきている。
- ごっこ遊びの中に作る活動を取り入れて、遊びを発展させることができるようになった。(D女、A女)
- ゴムタイヤの車作りに関心をもつ子が出てきた。
- じっくりと作って遊べるよう、椅子を使うことを勧める。テーブル近くの製作ワゴンには、箱類、紙、セロファン、ストロー、輪ゴム、折り紙等を常設しておく。
- 遊びの様子に応じて、チケット用の紙、カラービニール袋等を提示する。
- 作った車のコースを積木で作って、動くおもちゃを作る楽しさが味わえるようにする。
- リボン、セロファン等は、必要な分だけ持って行くよう伝える。また、ハサミやペン、ゴミ等の始末についても個別に指導する。(特にC女等)

注1) ○は子どもの姿、●は環境構成(物的、人的)

注2) 5歳児つきぐみは青い名札を、4歳児はなな園児が付いている胸名札の番号と指導案の(名札の色は、生活グループの色別にして)

注3) 保育者の配置について
遊びの場が2階と園庭に分かれるため、

- ・2階保育室、(園庭) 井口
- ・(園庭)、2階保育室 渡辺T
- ・園庭、動物当番 佐藤恵美
- ・保健室、廊下等 佐藤T

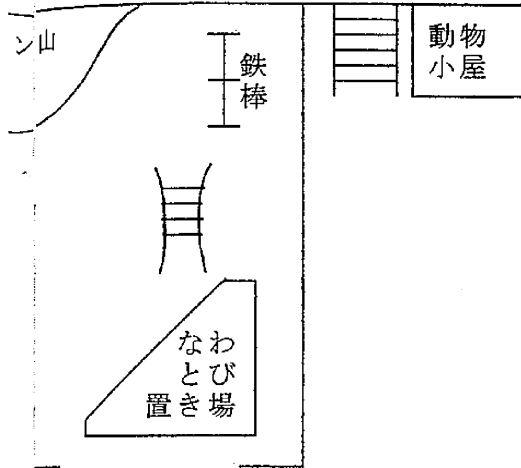
平成15年1月24日(金) 9:30~10:30
井口 眞美 (4歳児はなぐみ 男児17名、女児17名、計34名)

お家ごっこ等、ごっこ
ごっこの剣等) を作
いる。また、遊びの継
や竹ひご、ストロー

⇒

<本日のねらい>

- ごっこ遊び(お家ごっこ、ヒーローごっこ等)をすることを通じて、友達とのやりとりを楽しむ
- 友達の工夫している点やおもしろい点を取り入れて、遊びを発展させようとする
- 身の回りの物の始末にも目を向ける



<本日の流れ>

- 9:30 登園する
(動物当番をする…A女)
(身支度をする・金魚当番をする)
好きな遊びをする(2階保育室、園庭)
- 10:30 片づける
- 10:45 2階に集まる
(紙芝居の読み聞かせ、歌)
- 11:00 降園する

<朝の身支度、金魚当番>

- 本日からウサギの動物当番が始まる。5歳児の様子を見ながらやり方を覚えるようにする。(A女)
- S男は、身支度にかなり時間がかかる。
- 金魚当番を行うことは習慣づいている。
- 風邪気味の子も多い。休み明けのA男の体調や遊び出しを注意して見守るようにする。

<劇場ごっこをする>

- 廊下のゲームボックスの場所で、劇場ごっこをしている。(S女、I男等)イメージが共有できずに遊びが途切れてしまう。
- ごっこ遊びに使う物を作ることを勧めていく。(衣装、チケット等)
- J女、I女、遊びに入りにくい子を誘って観客になる等、遊びに入るきっかけを作る。また、観客になり、劇ごっこのイメージを具体的にしていく。

<カプラをする>

- 高く積み上げることに楽しさを感じている。きりんを作ってみたいとの声も上がっている。(E女)
- ミニカーと組み合わせてコースを作って遊ぶ男児が多いが、短時間で終わってしまうこともある。
- 落ち着いて遊べる場所にカプラを置いておく。また、遊び出しのきっかけとなるよう、カプラを少量組み立てておく。

<雨天の場合>

- 雨天の場合のみ、園庭のかわりに1階遊戯室を使用する。
- 大型積木でお家を作る、5歳児が作った場を利用してコースを渡って遊ぶ等の姿が見られる。
- 戦いごっこがエスカレートして、トラブルになることが多い。
- 久しぶりの遊戯室使用であるため、大型積木や大型ゲームボックスを使って基地やお家を作ることが積極的に働きかけていく。運び方、積み方が危険な様子も見られるので安全面には十分配慮する。
- 廊下に、平均台のコースやトンネルを出す。

<5歳児保育室>

階段

作品棚

林室

【環境図】

人的)を示す。

なぐみは黄色い名札をつけている。
の番号は一致している。
である。)

美)を基本とする